

研究テーマ	思考力・判断力・表現力を高める美術科の授業づくりの工夫 — 中学2年「積み立てボックス」の実践を通して —
-------	--

稲敷市立新利根中学校 教諭 箕輪 利和

I 研究テーマについて

平成20年度に改訂された学習指導要領では、「生きる力」を育成するための要素として、「基礎的・基本的な知識・技能」と共に、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力」をバランスよく身に付けさせることを重視している。また、言語活動の充実や学習習慣の確立を求めていることも大きな特色となっている。美術科での言語活動としては、形や色彩、そこから生成されるイメージを言葉として扱いながら、思考したり、表現したりする活動が考えられる。

本授業では、生徒一人一人の思考力・判断力・表現力を高めるための授業づくりとして、言語活動を積極的に取り入れることで、これからの美術科の授業づくりに対する新しい提言をしたいと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 自分だけの「積み立てボックス」を作ろう

2 題材の目標

- 技法や表現方法を工夫し、意欲をもって制作に取り組もうとする。（関心・意欲・態度）
- 自分の思いに沿って、想像力を働かせながら豊かな表現の構想を練ることができる。
（発想や構想の能力）
- 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う方法を工夫しながら創造的に表現することができる。
（創造的な技能）
- 色彩や構図による効果の違いを、友達の制作した作品を見ることを通して感じ取ることができる。
（鑑賞の能力）

3 題材について

(1) 生徒の実態

本校の第2学年の生徒は、授業中の発表も活発であり、意欲的に制作に取り組んでいる。しかし、教師の指示待ちのところがある。また、構想を練る段階に、複雑である程度の時間を要すると考えられる手法やデザインよりも、単純で簡単な手法やデザインを選びたがる傾向がある。思考力・判断力・表現力を高めるためには、自分で深く考えたことやイメージを大切に、自分の思いを表現の中に積極的に生かせるような授業展開の工夫が必要であると考えた。

(2) 題材観

本題材は、色彩や構成の組み合わせを工夫することで、自分の思いや新しく生まれてくるイメージを大切にしながら小物入れを制作する題材である。自分が使用する目的を考え、創意工夫しながら制作していく。土台となる段ボールのブロックに模様紙を張り込んで制作するが、本題材の大きな特徴として、その張り込む模様紙は友達に自分のイメージを言葉や文字、イラストで伝え、制作してもらった模様紙である。その模様紙を自分なりのイメージ通りに切り取り、貼り合わせて作品を完成させていく。自分のイメージ通りに制作してもらうために、言語等によるイメージの伝達は必須条件となる。

(3) 指導観

本題材では、使う人の気持ちや機能、造形的な美しさなどを考える発想・構想の段階に重点を置き支援する。生徒同士のコミュニケーションが取りやすいように、一人一人がデザイナー、また、デザインの依頼者となりそれぞれの立場をお互いに経験しながら作品づくりをさせていく。「幾何学模様の子習」や「デザインの注文票」、「構想図」を頼りに積極的に制作させていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
色彩や構成の効果に関心を持ち、意欲的に制作しようとしている。	色彩や構成による効果を理解して、表現意図に応じて制作計画を立てることができる。	材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う方法を工夫し、創造的に表現することができる。	色彩や構成による効果の違いを、友達の作品を見ることを通して感じることができる。

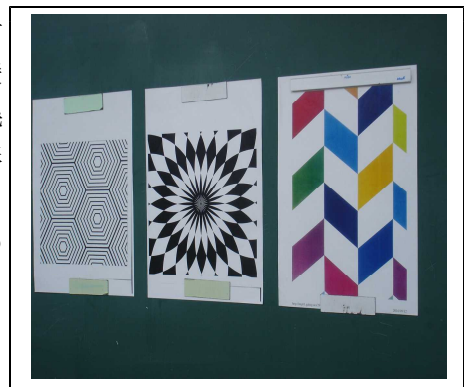
5 指導と評価の指導（10時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ②	幾何学模様のもつ美しさを鑑賞し、その効果と特性について知る。 自分が興味をもった幾何学模様を描く。（予備学習）	・幾何学模様に関心を持ち、意欲的に授業に参加しようとする。 関 【観察】 ・描きたい模様を工夫して描くことができる。 想 【ワークシート】
第2次 ②	自分のイメージを大切に、「デザインの注文票」「構想図」を描き、友達に制作を依頼する。	・自分の思いを積極的に、言葉や文字、イラストによって伝えようとする。 関 【デザイン注文票・構想図】
第3次 ⑤	友達の注文を受け、「模様紙」を制作する。	・友達の思いに沿って模様紙を積極的に制作することができる。 創 【模様紙】
第4次 ①	模様紙の貼り付けをする。 作品の振り返りをする。	・描いてもらった模様紙のよさを感じ取り、自分の思いにそって張り込むことができる。 鑑 【振り返りカード・作品】

6 指導の実際

(1) 「幾何学模様」についての予備学習

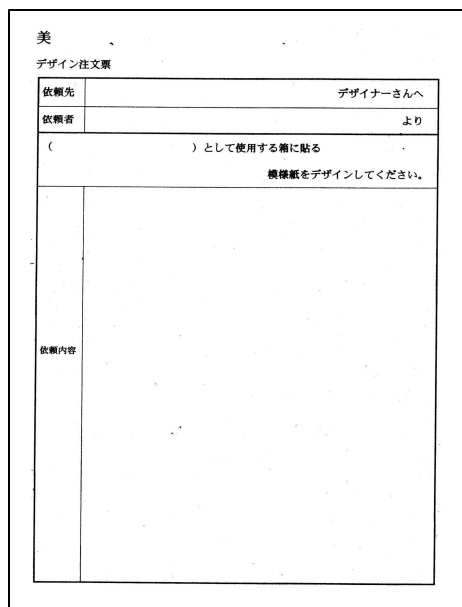
発想や構想する段階で、生徒に制作の見通しをもたせることは、思考力・判断力等を高めるうえで大切な支援の1つとなると考えた。そこで、参考例を示しながら幾何学模様の子習を行った。円や六角形、平行四辺形等を少しずつ並べただけでも1つの模様になることを知らせ、特に配慮を要すると思われる生徒にも制作の見通しがもてるように工夫した。



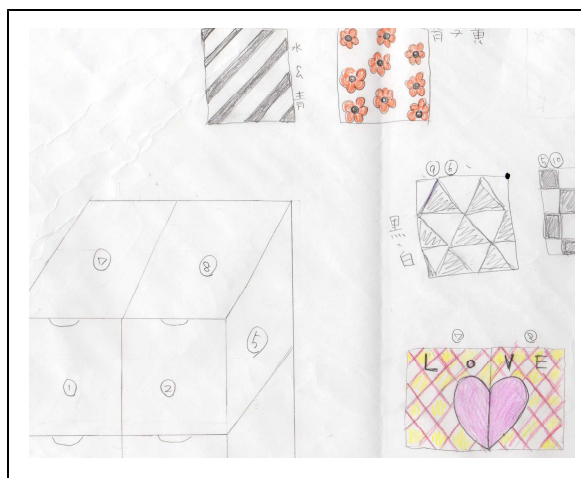
(写真1：板書の様子)

(2) 共同制作（話し合い活動）を取り入れたアイデアスケッチ

一人一人が「デザイナー」となり、友達の積み立てボックスに張り込む模様紙を制作した。それぞれの思いから必要としている模様紙を、友達である「デザイナー」に注文して、その依頼内容に応じて、意見交換を繰り返しながら友達の制作意図に応じた模様紙を描いていった。

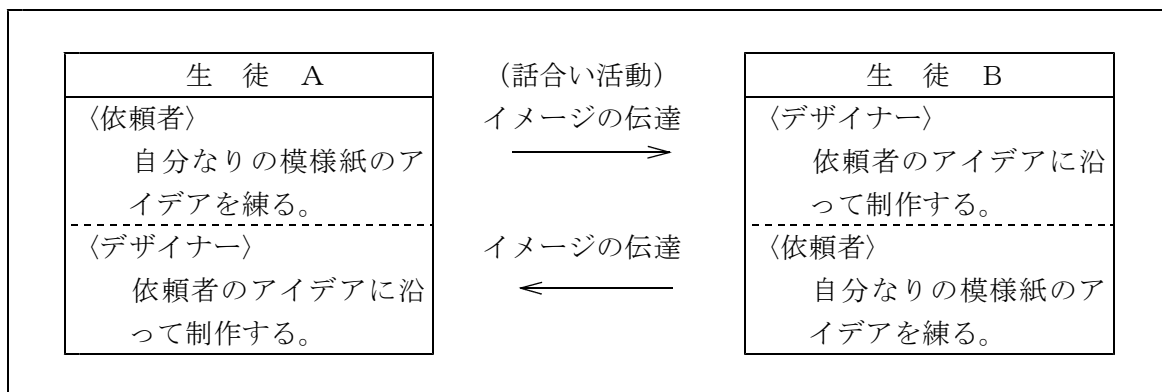


(写真2：デザイン注文票)



(写真3：構想図の例)

写真2は、デザインの注文を文字で記述したものであり、写真3は、図で説明したものである。



(図1：制作活動の模式図)

(3) 「模様紙」の制作

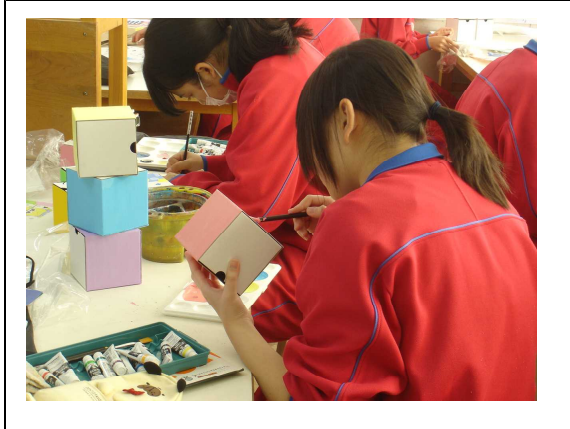
「模様紙」は、上質紙、色上質紙（薄い赤、薄い青、薄い黄色、薄い黄緑）を使い、アクリル絵の具で着彩させた。右の写真は、生徒が制作した模様紙の一例である。図形を使ったり、文字を入れたりしながら、友達の意図に応じた模様紙を制作していった。また、制作の途中でも、依頼者の意図を確認したり、変更点などの打ち合わせを行ったりと、積極的な話し合い活動が行われた。



(写真4：模様紙の一例)

(4) ボックスの組み立てと模様紙の張り込み

貼り込みの土台となる4つのボックスを用意し、生徒の自由な発想の基、自分なりの思いで組み立てさせた。

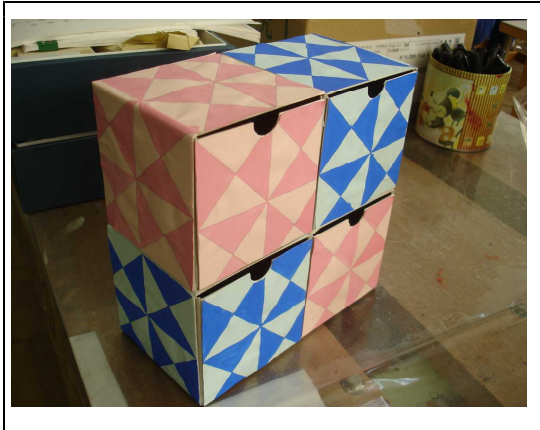


(写真5：ボックスを組み立てる)



(写真6：模様紙を制作する)

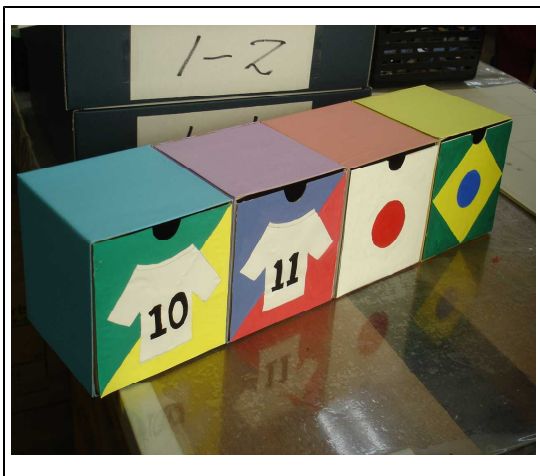
(5) 生徒作品



(写真7：正方形にまとめた作品)



(写真8：縦に並べた作品)



(写真9：横一列に並べた作品)



(写真10：変則的に組み合わせた作品)



(写真 1 1 : 猫の模様を組み合わせた作品)

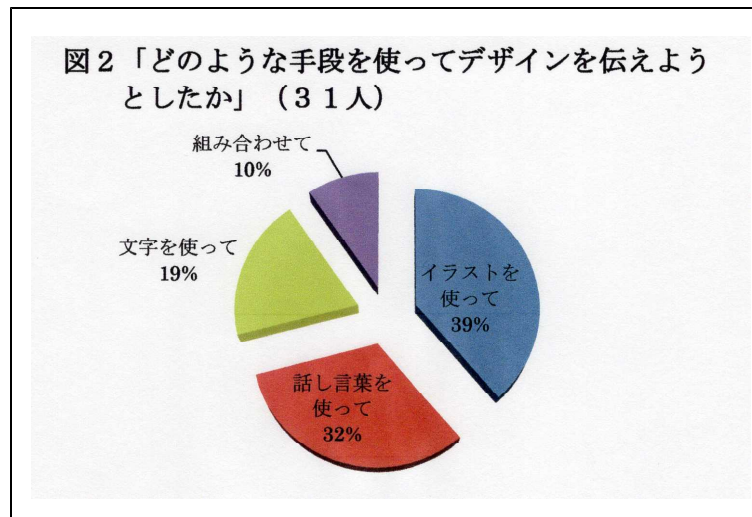


(写真 1 2 : 上が開いた組み合わせの作品)

(6) 授業の振り返り

「振り返りカード」を使って、授業後の振り返りを行った。制作意欲について、84%の生徒が「意欲的に取り組めた」と答えた。「だいたい取り組めた」と答えた生徒が16%で、「意欲的には取り組めなかった」と答えた生徒はいなかった。また、これまでの授業に比べて、友達との話し合いが増えたかどうかを質問したところ、77%の生徒が「増えた」と答えた。「少し増えた」が23%で、「増えなかった」と答えた生徒はいなかった。

さらに、自分の思い描いたデザインを友達に伝える時、どのような手段を使ったかを質問したところ、図2のような結果となった。



「イラストを使って」と答えた生徒が39%、「話し言葉を使って」と答えた生徒が32%、「文字を使って」と答えた生徒が19%、「イラストや文字、言葉を組み合わせで」と答えた生徒が10%であった。「イラストを使って」と「話し言葉を使って」の項目が比較的多かった。当初、特定の項目だけに偏るかと思われたが、本授業において、生徒はそれぞれの思いや実情に応じ、うまく手段を選択しながら伝達していったことが理解できた。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

自分の思いやイメージを友達に伝え、イメージ通りに模様紙を制作してもらったことにより、授業中の生徒間の話し合いは著しく増えた。また、話し言葉で伝えきれないと思ったことは、イラストにしたり、文字で追加したりして自分のイメージを伝えようとする努力の跡が認められた。1学期の「発想・構想」についての評価を振り返ってみると、十分満足とするA評価の生徒が43%、B評価の生徒が55%、努力を要するC評価の生徒が2%であったのに対して、本授業の作品の評価では、十分満足とするA評価の生徒52%、B評価が42%、努力を要するC評価の生徒が2%であった。この結果から、本授業の取り組みによって、思考力・判断力、表現力の向上が図られたことが分かる。

2 課題

本題材では、4つのブロックの組み合わせで実施したため、生徒の中には設定時間より多くの時間を必要とした生徒が数名あった。授業時間のことを考えると、もう少し時間短縮のできる題材の開発が求められたように思う。今後、研究していきたい。

〈参考文献〉

- 1) 中学校学習指導要領解説（美術編） 文部科学省
- 2) 平成29年度学校教育指導方針（茨城県版） 茨城県教育委員会